

社会福祉法人 真光会 各保育園の昨年度自己評価、およびそれにもなう今年度の園目標（抜粋）

園評価の方法について

各園、令和8年度の各園の目標設定のために、①子どもの発達援助5項目、②健康管理食事6項目、③保育環境2項目、④保育内容11項目、⑤子育て支援5項目、⑥多様な子育てニーズ対応1項目、⑦地域の子育て支援2項目、⑧地域の住民や関係機関等の連携7項目、⑨実習・ボランティア2項目、⑩運営方針5項目について、全職員で3段階評価を実施。

そこで、下記のように、令和7年度の評価および令和8年度当園としての努力していきたい項目を抽出して、各園の職員室に個人目標とともに掲示し、目標達成率向上に向けての行動基準を作成した。

	高木保育園	今町保育園	天竜保育園	梅北保育園
令和7年度園目標についての評価	遊びや生活を通して思いやりの心や人間関係が育めるように、『ぼかぼかタイム』として異年齢の園児との交流を月2回取り組む。回数を重ねていくうちに優しく言葉を掛けたり、触れ合うことを楽しんだりすることが見られるようになった。 ぼかぼかタイムの活動を通して、異年齢の園児で無理なく楽しむことができるよう活動内容の工夫や関わりが深められるような言葉掛け、仲立ちの大切さを改めて感じた。継続して取り組むことで相手を思いやるのが豊かに育まれていくのではないかなと思う。 今後も園児が笑顔で楽しみながら関わり合うことができるよう活動内容や関わり方を工夫していきたい。	・7年度の新たな取り組み【シャッフルデー】を通して、これまでの異年齢の園児同士での交流【あそんでみ隊】だけでは捉えきることができなかった園児一人一人の姿を、クラス担任以外の新鮮な視線で捉えられるようになった。また、職員も他クラスで一日を過ごす中で、これまで以上にクラスの枠を超えた関わりが深まり、自分のクラスだけという意識にも変化が見られた。この【シャッフルデー】と【あそんでみ隊】をさらに連動させ、園児と保育者の「やってみよう」という意欲を高めながら、職員間のさらなる連携の深まりや風通しのよい職場環境へとつなげていきたい。	・園目標に加え園の取り組みを13項目にして継続し、定期的に確認し合うことで、保育に対する意識や意欲、心がけに変化があった。また、保育や自分自身のことなど、俯瞰して現状を見つめ直す機会を得ることができた。 ・全職員の「おかげさまで・お互いさま」の気持ちでチームワークを保ちながら、無事に1年を終えることができた。 ・園児も保育者自身も園児とともに自らの主体性を育てている姿が見られるようになった。今後も自分の保育を省み、導入の工夫やマンネリ化の改善など資質向上できるよう努めていきたい。 ・職員間において、互いに助言し合える関係づくりや環境づくりがより必要と感じた。	園児を待つ、時間の許す限り丁寧に向き合う、園児に提案的に接する保育を通してあたたかい雰囲気を感じられる園になってきたと思う。クラスに拘らない保育展開と異年齢児交流が日常化され、全職員で全園児を見守り援助することができ、職員間で安心して支え合う雰囲気もある。 連絡事項や園側の思いがなかなか伝わらない現状に苦悩する。どうすれば伝わりやすいのか方法の模索と検討の必要性を感じる。 日々の保育、園児への関わりにおいて反省や不安、疑問、矛盾などを感じる毎日であるが、自分の保育を振り返ったり職員間で話し合うことができる園の雰囲気は前年度よりも向上していると思う。
令和8年度園目標	園児も保育教諭も楽しいと思える保育を ～遊びや豊かな人間関係を通して主体性と思いやりの心を育む～ ・園児のつぶやきを柔軟に取り入れながら保育を展開する力を身に付けていく。 ・異年齢の園児との交流の中で思いやりや友達存在を認め合う心を育む。 わくわくの日 自ら遊びを見つけながらじっくり遊び込む活動 ぼかぼかタイム 遊びや生活を通して思いやりや人間関係が育めるよう 異年齢の園児との交流(月2回)	◎園児の主体性、保育者の主体性(共主体)の保育を考えよう。 ～やってみよう!が溢れ出す今町保育園～ ①主体性ある保育展開を目指した職員個々のスキルアップ ・一貫性の関わりのある保育の実践 【あそんでみ隊】…日常保育におけるクラス・年齢の垣根を超えた交流 ②風通しのよい職場環境づくり 【シャッフルデー】…一日を他のクラスで過ごす保育者の「やってみよう」 ③食の楽しさを感じる食育活動 ・一つの食材、一つの料理→想像を膨らます→気づき・感謝 ・家庭と連動した食育の推進	「もう一歩」に挑む! ～保育に込められる「保育者の願い」の拠り所を、「仏さまの願い(まことの保育)」に～ ・昨年度の「もう一歩」を、自分の、クラスの、園の課題として掲げる。 ・園児それぞれの「もう一歩」を支え、促すことのできるような保育実践を。 保育には「保育者の願い」が込められる。そのため、自ずとそれぞれの保育者の子ども観や価値観が保育に投影される。昨年に引き続き、まことの保育12の主題に何度でも触れ、保育の羅針盤としていく。と同時に、まことの保育において願われる子どもの姿は大人(自分)の姿でもあることを再確認していく。	豊かな環境の中で、いのち、こころ、生きる力を育む ～大いに対話して園児の主体性を育もう～ 1. 園児が主体的に生活し、遊び込める園づくり ・園児の人格を尊重する ・園児の話を丁寧に聞く ・園児の育ちを信頼する 2. 風通しのよい園づくり ・日常的に異年齢児交流を深めよう 3. 園児を真ん中にした対話のある園づくり ・こども会議(ファシリテーターのスキルアップと記録の充実) ・おとな会議(職員間の対話・公開保育の充実におけるPDCA)